

学びに向かい、確かな学力を身につける子どもの育成

～児童が自ら学習を進めていくための学習展開の工夫～

下関市立小串小学校

1 研究の背景

(1) 今日の教育課題から

近年、情報技術の飛躍的な進化等を背景とした人工知能（AI）の急速な進化やグローバル化の進展などに伴い、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきた。そのような社会の中で、子供たち一人一人が、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながらどのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるようにすることが必要である。

このような時代において、子供たちが未来を切りひらくために必要な資質・能力を確実に育成することを目指し、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視している。また、現行学習指導要領の教育内容を維持した上で、知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること、加えて、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成することとしている。

つまり、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、「何ができるようになるか」を明確にして、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、「1. 知識及び技能の習得」「2. 思考力、判断力、表現力等の育成」「3. 学びに向かう力、人間性等の涵養」という三つの柱で再整理されたところである。

(2) 本校の教育目標から

本校では、「自ら考えて、『学ぶ』『伝え合う』『行動する』子どもの育成」を教育目標に掲げ、豊かな感性や確かな学力を育むための教育を推進している。この具現化のために、体験活動の充実や地域の方との交流活動の推進、心の教育の推進、個に応じた指導の充実などを進めてきた。その中で、本年度の重点取り組み事項を、①学力向上 ②思いやりの心の涵養 ③基本的な生活習慣の定着とした。特に、学力については、子どもたちが主体的に取り組む授業、ICTの活用、「書くこと、聴くこと、話すこと」を大切にしたいと考える。

(3) これまでの研究実践と子どもの実態から

本校の児童数は、現在23名で、1・2年、3・4年、5・6年全てが複式学級である。子どもたちは、地域の方々の温かい眼差しに支えられ、明るく素直に育っている。しかし、幼い頃から変化の少ない友達関係の中で生活していることから、お互いに高め合おうとする態度や、自分で考えて物事に取り組んでいこうとする態度を育てていくことが課題として挙げられてきた。

本校では「かかわり合い」を「学習材・学習仲間・学習者自身」の3つの視点でとらえ、研究を進めてきた。平成29・30・31年度は「学びがより深まる伝え合い活動をめざして」というサブテーマで研修した。その結果、「話し合いに積極的に参加する子

どもが増えた。」「以前より、教え合い、聞き合う姿勢が身に付いてきた。」「自分の考えをもって物事に取り組んでいくことができるようになってきた。」などの成果を挙げることができた。

その一方で、自分やみんなの考えをよりよいものに高め合っていこうとする意識が育ってきているものの、友だちの考えを聞いて自分との違いやよさを考え判断するまでには至っていない。また、自分の考えをしっかりと言葉にしたり、書いたりすることが十分に出来る児童と、思いを言葉に出来ず、書くことを面倒くさがって取り組まない児童との、学力の2極化がみられた。そのことにより低位の子どもの学習意欲が見られず、学習に向かう姿勢に課題があると思われた。

そこで、令和2年度より研修主題を「学びに向かい、確かな学力を身につける子どもの育成」とし、そこで、学びに向かう子どもの育成に焦点を当てて研修を進めていくこととした。令和2・3年度は、見通しを持たせることで、学習意欲を喚起することを研修の重点とした。児童にとって身近な課題やわかりやすい問題、既習事項の復習からの導入など様々な手法を取り入れることで、ある一定の成果を見ることはできた。

令和4年度は、完全複式となることを見越し、ガイド学習やリーダー学習を取り入れた授業研究を研修の重点とした。複式学級未経験の教員も、複式指導に意識を向け、手法について学ぶことができた。

しかしながら、基礎・基本的な学力の定着が難しく、一般的な複式の授業形態が、本校の児童の実態にそぐわない面が見られた。本年度は、更に、児童の実態に寄り添った研修、授業形態の確立を追求していきたいと考えた。

2 研究の内容

(1) 研究の視点

①基礎学力をつける。

- ・授業の中での習熟、ドリルやプリントを活用した積み重ね
- ・個別の指導
- ・アウトメディア週間での反復練習と評価テスト

②児童が自分の考えを明確にし、全体に伝え広げ共有する。

- ・自分の考えを明確にするため、線を引く、丸で囲む、絵や図にかくことの積み上げ
- ・自分の考えを、ノートに言葉で書くことの積み上げ
- ・自分の考えを、分かりやすく表現するための方法や支援（各学年の評価話型）
- ・話し合いの仕方や形態の工夫、児童が考えを深め広げるための指導の工夫

(2) 研修の内容

- 児童の課題（自分の考えを分かりやすく伝え、相手の考えをくみ取ることができる子ども・学習仲間とお互いに学び合い、高め合っていくことができる子ども）の解決につながる授業の工夫・改善
- これまでの研修の成果を基盤にした複式学級における授業の進め方の習熟
 - ① 学習過程を意識した授業の在り方・指導方法の研究
 - ・「つかむ」過程を重視 → 見通しが立てられる、導入での課題提示の工夫
 - ・「考える」過程 → 主語・述語を明確にし、自分の考えを分かりやすく表現する

など、話す・聞く・考える活動の充実と支援の方法

- ・ペア・グループ・全体などいろいろな形態での効果的な話し合い活動
- ・「話し合う」段階において、自分の考えを伝え合うとともに、お互いの考えを練り合わせ、深めたり広げたりする場の工夫や支援の方法

② 学び合いの基礎となる「書く・話す・聞く」力の育成

- ・自分の考えを分かりやすく伝えるためのノート活用の活用 → 【かしこくなるノートの使い方10】の改良
- ・低・中・高学年毎の「評価話型」を教室に掲示
- ・児童が聞いているかの確認「〇〇さんの言ったことは、どういうこと？」という問い返し
- ・聞き方と学び合いについて、聞き方の系統表を活用

(3) 具体的な実践内容

① 授業公開 (年4回) ※内3回は外部から講師を招聘

研究の視点及び研修の内容を踏まえた「指導案の検討・作成」「授業の実施」「授業後の振り返り」を積み重ねていった。

<p>第1学年算数科「大きい数」学習指導案(5/13) 指導者 山田 綾子</p> <p>(1) 日時 1月19日(金)3校時 1・2年教室</p> <p>(2) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100までの数を正しくかくことができる。【知識・技能】 ・100までの数を興味をもち、まわりを見つたり、説明しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 <p>(3) 準備物 100までの数の表(給用)、タブレット端末</p>	<p>第2学年算数科「九九のまわり」学習指導案(6/5) 指導者 山田 綾子</p> <p>(1) 日時 1月19日(金)3校時 1・2年教室</p> <p>(2) ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九九を応用して、簡単な(1位数)×(2位数)の算えを求めることができる。【知識・技能】 ・九九の関係の仕方をもとに、簡単な(1位数)×(2位数)の算えを乗算と積の関係を使って考えたり、説明したりしている。【思考・判断・解决问题的能力】 ・4×12のりんごの絵、ホワイトボード、タブレット端末 <p>(3) 準備物</p> <p>(4) 展開</p>																																																																				
<p>1/19 (金) p.135</p> <p>100までのかぎのひよこのまわりを見つよう。</p> <p>よこ</p> <p>かぎのパスル(ロイノート)</p> <p>(まわり) よこに見ると、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一のくらのすう字が、1から、10まで、じゅんばんに ・十のくらのすう字はおなじ、たてに見ると、 ・一のくらのすう字はおなじ、 ・十のくらのすう字が、1ずつ、大きくなっている。 <p>できたこと・わかったこと・思ったこと</p> <p>ひよこのまわりを見つることができました。</p> <p>ひよこのまわりをつかって、100のまわりを見つことができました。</p>	<p>1/19 (金) p.178</p> <p>かける数が12のかけ算の、算えのともめ方を考えよう。</p> <p>りんごは 何こ ありますか。 たて4こ 12こ分</p> <p>しき 4×12</p> <p>4×12の算えのともめ方を考えよう。</p> <p>4ずつあてる</p> <p>分けて計算する じゆんに計算する 九九の表をつかう</p> <p>かける数がふると、算えはかかられる数だけふえる。かける数が九にないときは、このまわりをつかって、算えをよめることができる。</p> <p>3×12の算えをよめるよう。</p> <p>2 = 2 × 1 算えは通すつあてる (かけられる数)</p> <p>3 = 3 × 1</p> <p>4 = 4 × 1</p> <p>5 = 5 × 1</p> <p>6 = 6 × 1</p> <p>7 = 7 × 1</p> <p>8 = 8 × 1</p> <p>9 = 9 × 1</p> <p>できたこと・わかったこと・思ったこと</p> <p>九九の表をつかって、より大きいかけ算の計算ができました。</p> <p>ほかの表でも、九九にないかけ算で、かけ算ができました。</p> <p>〇〇さんのすう字が、わかりやすかったです。</p>																																																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指導上の留意点(★詳細)</th> <th>学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・1から順に100までの数をかき、100までの数を正しくかくこと。数を正しくかくこと。や表にひもをまわりにつくことになつる。</td> <td>1 問題を把握し、めあてを編成する。(10分)</td> </tr> <tr> <td>★100までの数を正しくかくことができる。</td> <td>① 100までの数をかき、めあてを編成する。</td> </tr> <tr> <td>めあて 100までの数のまわりを見つよう。</td> <td>2 表のまわりを見つ作る。(15分)</td> </tr> <tr> <td>・表の見方(縦、横など)を説明し、つづいたことを表に書きだせるようにする。</td> <td>① 自分でまわりを見つ作る。</td> </tr> <tr> <td>・教師と意見交換をしなが、算数用語(一の位、十の位など)にふれたり、理解したりできるようにする。</td> <td>② 教師と意見交換をする。</td> </tr> <tr> <td>★100までの数に興味をもち、まわりを見つようとしている。</td> <td>③ 「よこに見ると・・・?」「たてに見ると・・・?」</td> </tr> <tr> <td>・数字をかいたピースを用意し、表に当てはめさせる。</td> <td>④ 見つけたことをまめめ、ノートにかく。</td> </tr> <tr> <td>・3種類の表を用意し、形をな方を通しことができるようにする。【ロイノート】</td> <td>横に見ると・一の位の数字が1から10まで順番にふっている。</td> </tr> <tr> <td>・児童が困っている場合は、表のまわりをまわり立ち回り、ピースが表のどこに入りそうか見番をつけることできるように支援する。</td> <td>・十の位の数字は同じ。</td> </tr> <tr> <td>・ピースを当てはめた理由を、算数用語を使って説明させることで、理解を深められるようにする。</td> <td>・十の位の数字が1ずつ大きくなっている。</td> </tr> <tr> <td>★まわりを使って、表を表現できるようにする。</td> <td>3 かぎの12を解く。(12分)</td> </tr> <tr> <td>★算えの見つ方を説明しようとしている。</td> <td>① 自分で考える。</td> </tr> <tr> <td>・できたこと、わかったこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書くことで、学習したことや自分の考えをまとめることができるようにする。</td> <td>② 教師と話し合う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4 今日の学習を振り返る。(8分)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>① ふりかえりをノートに書く。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 発表する。</td> </tr> </tbody> </table>	指導上の留意点(★詳細)	学習活動	・1から順に100までの数をかき、100までの数を正しくかくこと。数を正しくかくこと。や表にひもをまわりにつくことになつる。	1 問題を把握し、めあてを編成する。(10分)	★100までの数を正しくかくことができる。	① 100までの数をかき、めあてを編成する。	めあて 100までの数のまわりを見つよう。	2 表のまわりを見つ作る。(15分)	・表の見方(縦、横など)を説明し、つづいたことを表に書きだせるようにする。	① 自分でまわりを見つ作る。	・教師と意見交換をしなが、算数用語(一の位、十の位など)にふれたり、理解したりできるようにする。	② 教師と意見交換をする。	★100までの数に興味をもち、まわりを見つようとしている。	③ 「よこに見ると・・・?」「たてに見ると・・・?」	・数字をかいたピースを用意し、表に当てはめさせる。	④ 見つけたことをまめめ、ノートにかく。	・3種類の表を用意し、形をな方を通しことができるようにする。【ロイノート】	横に見ると・一の位の数字が1から10まで順番にふっている。	・児童が困っている場合は、表のまわりをまわり立ち回り、ピースが表のどこに入りそうか見番をつけることできるように支援する。	・十の位の数字は同じ。	・ピースを当てはめた理由を、算数用語を使って説明させることで、理解を深められるようにする。	・十の位の数字が1ずつ大きくなっている。	★まわりを使って、表を表現できるようにする。	3 かぎの12を解く。(12分)	★算えの見つ方を説明しようとしている。	① 自分で考える。	・できたこと、わかったこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書くことで、学習したことや自分の考えをまとめることができるようにする。	② 教師と話し合う。		4 今日の学習を振り返る。(8分)		① ふりかえりをノートに書く。		② 発表する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指導上の留意点(★詳細)</th> <th>学習活動</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・問題を把握し、めあてを編成する。(7分)</td> <td>1 問題を把握し、めあてを編成する。(7分)</td> </tr> <tr> <td>① 表を見て、りんごの数の求め方を考える。</td> <td>① 表を見て、りんごの数の求め方を考える。</td> </tr> <tr> <td>② 2をかける。</td> <td>② 2をかける。</td> </tr> <tr> <td>③ めあてを編成し、ノートに書く。</td> <td>③ めあてを編成し、ノートに書く。</td> </tr> <tr> <td>めあて かけ算の数が12のかけ算の求め方を考えよう。</td> <td>2 問題を解く。(15分)</td> </tr> <tr> <td>・九九だと4×9までしかないが、かける数がふると算えはかかられる数だけふるといふ既習事項を必要に応じて確認する。</td> <td>① 自分でりんごの数を求める。</td> </tr> <tr> <td>・4×12の求め方を分けることを通して、共通の考えや、より簡単に求めることができる考えに気づくことができるようにする。</td> <td>② リーダーを中心に、求め方を発表する。</td> </tr> <tr> <td>・今日の学習でわかったことや大事な点を考えさせ、児童の言葉をまとめるようにする。</td> <td>③ 求め方を分類する。</td> </tr> <tr> <td>★九九の関係の仕方をもとに、4×12の算えを乗算と積の関係をつかって考えたり、自分なりに説明をしたりしている。</td> <td>④ まめめをノートに書く。</td> </tr> <tr> <td>・まめめをもとに、練習問題に答えよう。○×12や、□×12など他のかけ算の算えを求めたりできるように、ヒントカードを用意しておく。</td> <td>かける数が1増えると、算えはかかられる数だけ増える。かける数が九にないときは、このまわりを使って、算えを求めることができる。</td> </tr> <tr> <td>★九九を応用して、3×12の算えを求めたり、ほかの表でも解いたりしている。</td> <td>3 練習問題に取り組む。(12分)</td> </tr> <tr> <td>・できたこと、わかったこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書くことで、学習したことや自分の考えをまとめることができるようにする。</td> <td>① 自分で考える。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② リーダーを中心に算えを合わせる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4 今日の学習を振り返る。(8分)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>① ふりかえりをノートに書く。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>② 発表する。</td> </tr> </tbody> </table>	指導上の留意点(★詳細)	学習活動	・問題を把握し、めあてを編成する。(7分)	1 問題を把握し、めあてを編成する。(7分)	① 表を見て、りんごの数の求め方を考える。	① 表を見て、りんごの数の求め方を考える。	② 2をかける。	② 2をかける。	③ めあてを編成し、ノートに書く。	③ めあてを編成し、ノートに書く。	めあて かけ算の数が12のかけ算の求め方を考えよう。	2 問題を解く。(15分)	・九九だと4×9までしかないが、かける数がふると算えはかかられる数だけふるといふ既習事項を必要に応じて確認する。	① 自分でりんごの数を求める。	・4×12の求め方を分けることを通して、共通の考えや、より簡単に求めることができる考えに気づくことができるようにする。	② リーダーを中心に、求め方を発表する。	・今日の学習でわかったことや大事な点を考えさせ、児童の言葉をまとめるようにする。	③ 求め方を分類する。	★九九の関係の仕方をもとに、4×12の算えを乗算と積の関係をつかって考えたり、自分なりに説明をしたりしている。	④ まめめをノートに書く。	・まめめをもとに、練習問題に答えよう。○×12や、□×12など他のかけ算の算えを求めたりできるように、ヒントカードを用意しておく。	かける数が1増えると、算えはかかられる数だけ増える。かける数が九にないときは、このまわりを使って、算えを求めることができる。	★九九を応用して、3×12の算えを求めたり、ほかの表でも解いたりしている。	3 練習問題に取り組む。(12分)	・できたこと、わかったこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書くことで、学習したことや自分の考えをまとめることができるようにする。	① 自分で考える。		② リーダーを中心に算えを合わせる。		4 今日の学習を振り返る。(8分)		① ふりかえりをノートに書く。		② 発表する。
指導上の留意点(★詳細)	学習活動																																																																				
・1から順に100までの数をかき、100までの数を正しくかくこと。数を正しくかくこと。や表にひもをまわりにつくことになつる。	1 問題を把握し、めあてを編成する。(10分)																																																																				
★100までの数を正しくかくことができる。	① 100までの数をかき、めあてを編成する。																																																																				
めあて 100までの数のまわりを見つよう。	2 表のまわりを見つ作る。(15分)																																																																				
・表の見方(縦、横など)を説明し、つづいたことを表に書きだせるようにする。	① 自分でまわりを見つ作る。																																																																				
・教師と意見交換をしなが、算数用語(一の位、十の位など)にふれたり、理解したりできるようにする。	② 教師と意見交換をする。																																																																				
★100までの数に興味をもち、まわりを見つようとしている。	③ 「よこに見ると・・・?」「たてに見ると・・・?」																																																																				
・数字をかいたピースを用意し、表に当てはめさせる。	④ 見つけたことをまめめ、ノートにかく。																																																																				
・3種類の表を用意し、形をな方を通しことができるようにする。【ロイノート】	横に見ると・一の位の数字が1から10まで順番にふっている。																																																																				
・児童が困っている場合は、表のまわりをまわり立ち回り、ピースが表のどこに入りそうか見番をつけることできるように支援する。	・十の位の数字は同じ。																																																																				
・ピースを当てはめた理由を、算数用語を使って説明させることで、理解を深められるようにする。	・十の位の数字が1ずつ大きくなっている。																																																																				
★まわりを使って、表を表現できるようにする。	3 かぎの12を解く。(12分)																																																																				
★算えの見つ方を説明しようとしている。	① 自分で考える。																																																																				
・できたこと、わかったこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書くことで、学習したことや自分の考えをまとめることができるようにする。	② 教師と話し合う。																																																																				
	4 今日の学習を振り返る。(8分)																																																																				
	① ふりかえりをノートに書く。																																																																				
	② 発表する。																																																																				
指導上の留意点(★詳細)	学習活動																																																																				
・問題を把握し、めあてを編成する。(7分)	1 問題を把握し、めあてを編成する。(7分)																																																																				
① 表を見て、りんごの数の求め方を考える。	① 表を見て、りんごの数の求め方を考える。																																																																				
② 2をかける。	② 2をかける。																																																																				
③ めあてを編成し、ノートに書く。	③ めあてを編成し、ノートに書く。																																																																				
めあて かけ算の数が12のかけ算の求め方を考えよう。	2 問題を解く。(15分)																																																																				
・九九だと4×9までしかないが、かける数がふると算えはかかられる数だけふるといふ既習事項を必要に応じて確認する。	① 自分でりんごの数を求める。																																																																				
・4×12の求め方を分けることを通して、共通の考えや、より簡単に求めることができる考えに気づくことができるようにする。	② リーダーを中心に、求め方を発表する。																																																																				
・今日の学習でわかったことや大事な点を考えさせ、児童の言葉をまとめるようにする。	③ 求め方を分類する。																																																																				
★九九の関係の仕方をもとに、4×12の算えを乗算と積の関係をつかって考えたり、自分なりに説明をしたりしている。	④ まめめをノートに書く。																																																																				
・まめめをもとに、練習問題に答えよう。○×12や、□×12など他のかけ算の算えを求めたりできるように、ヒントカードを用意しておく。	かける数が1増えると、算えはかかられる数だけ増える。かける数が九にないときは、このまわりを使って、算えを求めることができる。																																																																				
★九九を応用して、3×12の算えを求めたり、ほかの表でも解いたりしている。	3 練習問題に取り組む。(12分)																																																																				
・できたこと、わかったこと、思ったことなどを自分の言葉でノートに書くことで、学習したことや自分の考えをまとめることができるようにする。	① 自分で考える。																																																																				
	② リーダーを中心に算えを合わせる。																																																																				
	4 今日の学習を振り返る。(8分)																																																																				
	① ふりかえりをノートに書く。																																																																				
	② 発表する。																																																																				

※「1・2年生 算数の指導案」 ※複式学級のため2学年分の指導案を1枚にまとめて作成している



②リーダーカードの工夫・改良

本校は、今年度から全学級複式となったため、どの学級でも、教師が隣の学年の指導をしている時は、自分たちで授業を進めていかななくてはならない状態が生じる。そこで導入しているのが「リーダーカード」である。どんなリーダーカードが良いのか。どんな内容が書かれているべきか。渡すのはリーダーだけが良いのか等、様々な試みを行った。

どの学年も、「紙媒体・リーダーのみの配付」でスタートしたが、次第にタブレットを活用することが主流になり、リーダーだけでなく全員が見ることができるようになり、字の太さや字体を変えて読みやすさや使いやすさを追求するなど、この1年の間に様々な工夫・改善が行われていった。

③教材・教具・場の工夫

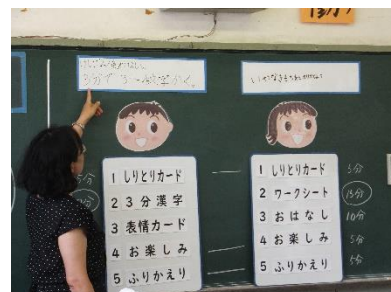
(例1) 教材の工夫「秘密基地づくり※ゴーヤを用いて」

・子どもたち自身が主体となり、アイデアを出したり意見を戦わせたり、協力したりするような、活動自体に魅力ある教材を開発することも、研究課題に迫る1つの方法であると考えます。とはいえ、その教材をもとに、いつ、何を、どのように子どもたちに仕掛けるかが重要である。



(例2) 教具の工夫「見通しボード」

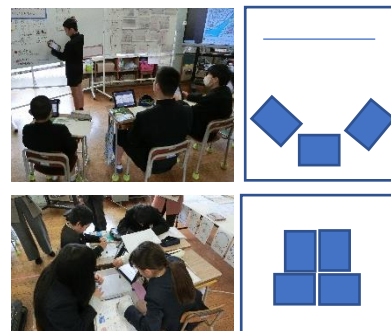
・特別支援学級における実践である。複式学級の授業スタイルを特別支援学級の児童の実態に合った形に変えて行うことにより、特別支援学級においても、教師が隣の児童の指導についても、自分の力で学習を進めることができるようになった。



③場の工夫

(例1) 机の配置

・複式学級で授業をする場合、黒板をL字に配置し、それに合わせて児童の机を配置して行うことが多いが、児童の実態や、個人の学びを大切にするのか関わり合いを大切にするのか等によって、机の配置を変えることが有効であった。少人数で教室に余裕があるからこそ、いろいろな方法を試みることができるのである。



3 研究のまとめ

全学級が「複式学級」となり、複式の授業に初めて本格的に取り組む教員が半数いるという状態のスタートであった。しかし、全学級が複式学級になることを事前に想定し、ここ数年、複式学級における授業の在り方について研修を進めていたことにより、日々の実践と並行して研修を深めることができた。また、ただ単に複式学級における授業の進め方の研究に終わらず、目の前にいる児童の課題を解決するために日々どのような授業を行っていくべきかということ問い続けたことも、今年度評価すべきポイントであると感じている。

今年度の学びを、しっかりと次の年度に引き継ぎ、さらなる積み重ねを行っていきたい。